

病院の役割と今後について

【基本情報】

病院名	国立大学法人京都大学医学部附属病院				
所在地	京都府京都市左京区聖護院川原町 54				
許可病床数	1,121 床（一般病床、精神病床、結核病床の合計）				
病床の種別 （非稼働病床）	一般 1,046 床 (0 床)	精神 60 床 (0 床)	結核 15 床 (0 床)		
主な診療科目 （上位3つ）	内科		外科		眼科
病床機能	高度急性期 1,046 床	急性期 0 床	回復期 0 床	慢性期 0 床	
主な病院機能	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特定機能病院 ○ 臨床研究中核病院 ○ 都道府県がん診療連携拠点病院 ○ 小児がん拠点病院 ○ がんゲノム医療中核拠点病院 ○ エイズ治療の中核拠点病院 ○ 肝疾患診療連携拠点病院 ○ 総合周産期母子医療センター ○ 難病医療協力病院 ○ 脳卒中（急性期）を担う病院 ○ 急性心筋梗塞（急性期）を担う病院 ○ 医療観察法による指定通院医療機関 ○ 精神保健福祉法に基づく指定病院・応急入院指定病院 ○ 精神疾患救急輪番病院（京都府南部） ○ 臨床修練指定病院（外国医師・外国歯科医師） ○ 臨床研修指定病院 ○ 地域災害拠点病院 ○ 原子力災害拠点病院 				

【現状と今後について】

<p>自施設の現状</p>	<p>本院は、特定機能病院として質の高い医療を京都・乙訓医療圏に限らず全国の患者に提供することを理念としている。</p> <p>このため、京都・乙訓医療圏の病床機能だけではなく、京都府を含めた全国の患者を受け入れることが使命であり、全ての病床を高度急性期としている。</p>
<p>自施設の課題</p>	<p>高度急性期を担うためには、治療後、早期に回復期病院への転院または在宅へ繋いでいかななくてはならない。そのためには、地域医療機関との連携の強化とともに入院前から患者のQOLを考慮した一連の連携を含めた治療計画の策定が求められ、その体制作りが必要である。</p>
<p>地域において今後担う役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本院では高度な医療を提供すべく2次医療圏以外からの重症患者の受入に関しても、その役割を積極的に担う。 ○ 高度急性期医療としての役割を果たすべく、脳卒中及び心血管系疾患をはじめとする急性期医療の提供体制を充実させていく。 ○ 高度急性期医療の提供と並行して、患者一人一人に対するより良い治療と生活の質(QOL)の向上を目指し、回復期・慢性期機能を担う地域の医療機関と効率の良い病病、病診連携の構築に努める。 ○ 質の高い医療を提供するために、臨床研究中核病院として新しい医療の研究・開発を担う。 ○ 2019年度開設予定のiPS等臨床試験センター(仮称)において、治験病床を30床設置(一般病床10床減床)し、iPS細胞等の医学・医療への応用を目指す。 ○ 優れたメディカルスタッフの養成を行うとともに、優秀な教育者及び研究者を目指した専門職継続教育を行うことにより、豊かな人間性を備えた、各分野で中核となる人材を育成する。 ○ がんゲノム医療中核拠点病院 本院は、がんゲノム医療中核拠点病院として、患者さんやその家族のがんゲノム医療への理解を促し、がんゲノム検査の実施や治療法選択の意思決定支援を進めていく。 ○ 総合周産期母子医療センター 本院は、総合周産期母子医療センターとして、京都府の周産期医療の充実に取り組んでいきたいと考えている。

	<p>○ てんかん拠点病院 本院は、脳磁図検査や外科的治療など専門性の高い治療を提供可能であり、現在、指定病院がない京都府下において、拠点病院としての役割を担っていきたいと考えている。</p> <p>○ 高度救命救急センター 本院は、高度急性期病棟（Ⅱ期病棟）の開院を控えており、救急機能や高度急性期病棟の充実を図ることとしている。人員に関しても、高度救命医療を担うに相応しい体制を整備することにより、京都府下における高度救命救急センターとしての役割を担っていきたいと考えている。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>○ 2019年度竣工予定の総合高度先端医療病棟（Ⅱ期）の新営に伴い、ケアユニットを57床から98床に増床することで、更なる重症患者の受入が可能となる。</p> <p>○ 現在の急性期病棟の規模を引き続き維持する必要があり、特に次の2つの機能を整備していきたいと考えている。</p> <p>① 急性期脳血管障害患者の診療 SCU 開院後、多くの脳血管障害患者を緊急で受け入れており、このケアユニットでは、更に急性期脳血管障害患者の治療が可能となるよう増床を計画しており、他病院との連携体制の拡充を図っていくこととしている。</p> <p>② 小児センター 本院は、小児センターの設置を予定しており、小児患者の集約と横断的な治療に取り組むこととしている。また、院内学習スペースの拡充や長期入院となる小児への治療以外のケアについても充実させていく予定である。</p>

病院の役割と今後について

【基本情報】

病院名	京都府立医科大学附属病院			
所在地	京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465			
許可病床数	1,065床（一般病床、精神病床、結核病床の合計）			
病床の種別 （非稼働病床）	一般 893床 （87床）	精神 118床 （95床）	結核 54床 （43床）	
主な診療科目 （上位3つ）	小児科	腎臓内科	消化器内科	
病床機能	高度急性期 119床	急性期 671床	回復期 0床	慢性期 16床
主な病院機能	<ul style="list-style-type: none"> ○特定機能病院 ○都道府県がん診療連携拠点病院 ○小児がん拠点病院 ○がんゲノム医療連携病院 ○エイズ治療拠点病院 ○肝疾患診療連携拠点病院 ○地域周産期母子医療センター ○妊娠と薬情報センター拠点病院 ○認知症疾患医療センター（基幹型） ○第一種感染症指定医療機関 ○難病医療協力病院 ○脳卒中（急性期）を担う病院 ○急性心筋梗塞（急性期）を担う病院 ○医療観察法による指定通院医療機関 ○精神保健福祉法に基づく指定病院・応急入院指定病院 ○精神疾患救急輪番病院（京都府南部） ○臨床修練指定病院 ○臨床研修指定病院 ○地域災害拠点病院 ○原子力災害拠点病院 			

【現状と今後について】

<p>自施設の現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病床の機能区分のうち高度急性期機能を中心に担っており、34診療科で高度医療を提供している。 ・人材育成については、初期研修医がたすぎがけ研修を受けることができるよう19の協力病院を有し、一次から三次まで全ての医療現場を経験することができる環境を整備している。 ・医師確保については、小児科・産科等特定診療科の医師不足や医師数の地域偏在の課題に対応するため、京都府の医師確保や育成に係る各種事業に協力している。 ・緩和ケア病棟を稼働しており、専門的ながん医療の提供やがん医療を支える人材の育成に貢献している。 ・地域の医療機関との更なる連携強化を図り、お互いが有する医療機能を活用し医療連携を円滑に行うことを目的として、地域医療ネットワークを発足、運営している。
<p>自施設の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学病院本院（特定機能病院）として、高度で重症度の高い患者に集中できるよう、新たな地域医療連携の枠組みによる病床機能分化への適切な対応 ・高度で重症度の高い医療を提供するのに十分な施設、設備、人的資源等の環境整備 ・重症救急患者受入れ促進のため、夜間救急体制の強化 ・人材確保・育成、業務改善、顧客満足度向上などにより、病院収支の改善に努めるとともに、永続的・安定的な病院経営基盤の構築
<p>地域において今後担う役割</p>	<p>【高度な医療提供機能を担う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育と研究に基づいた地域トップの高度な医療を提供する。 ・重症救急患者受入を進められるよう救急医療体制を拡充するとともに、手術室やICU等の増室を行うなど、施設・設備、人的な環境整備を図り、大学病院として最先端の技術を結集して、当院で行うことが最も適した難度の高い手術等を実施し、高度な医療を提供する。 <p>【地域の基幹病院としての役割を果たす】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域医療連携ネットワーク」を強化するとともに、新たな地域医療連携の枠組みを構築し、医療人材の育成、医療安全等のノウハウの共有等において積極的な役割を果たしていくことで地域医療機関との連携を飛躍的に強化し、地域の病床機能分化に貢献する。

今後の展望	<ul style="list-style-type: none">・地域医療連携による役割分担を進め、当院は、高度急性期病床を中心としながら、特定機能病院として、地域における役割を果たせるよう病床機能について検討する。・地域における役割を果たす中で、最適な病床規模を検討する。・更なる人的交流等を図ることにより、北部医療センターとの連携をより一層充実・強化する。
-------	--